

地方における住民意識調査について

九州工業大学 正員 渡辺義則

九州工業大学 学生員 ○尾崎忠晴

1. はじめに

福岡県遠賀郡岡垣町における長期総合計画を策定する基礎とするために、岡垣内に居住する住民の生活環境に対する現状評価、将来計画への期待とその方向等の意識を調査、分析する機会を得たので報告する。

2. 調査の方法

(1) 調査の期間 : 平成元年 7月

(2) 調査対象地区 : 福岡県遠賀郡岡垣町 {人口約2,8000人 面積4850ha (昭和60年)}

(3) 調査対象者 : 岡垣町在住の有権者

(4) 標本抽出法

岡垣町選挙人名簿により行政区を単位層とする層化抽出法によって標本抽出した。抽出率はそれぞれ、市街地20地区8.1%、農・漁業13地区14.0%、残り地区10.0%とした。なお、標本数は、有権者数20863人の9.6%の2,000人である。

(5) 配布並びに回収方法

各人に住民意識問題回答用紙を郵送し、同封の封書で返送させた。

(6) 標本回収率

配布2,000票に対して、1188票を回収した。回収率は、地域的にはほぼ一定であった。

3. 岡垣町の概要

岡垣町は、北九州・福岡両政令指定都市の中間に位置し、九州の動脈をなす国道3号線、JR鹿児島本線が本町を貫通しており、交通の便はよい。石炭産業の発展期には炭鉱が盛んであったが、昭和31年閉山し、町の財政は疲弊した。しかし、昭和40～50年代に北九州市のベッドタウンとして宅地開発が進み、現在においても同市は本町の就業、就学地として深い結びつきがある。本町は、東から西に東、中、西部とそれぞれ特徴ある3地区に大別できる。東部地区には、JR海老津駅があり周辺には商業地域と、昭和40～50年代に開発された住宅団地が存在し、全人口の約65%がこの地域に集中している。一方、全人口の約25%が住んでいる中部地区には町役場をはじめとする公共施設が存在する。更に西部地区は、岡垣町の基幹産業である農業、或いは漁業が盛んな地域であり、ここに全人口の約10%が住んでいる。それぞれの地域が本町の全面積に占める割合は、それぞれ42, 36, 22%である。

4. 集計結果

(1) 個人属性

本調査に於いて、回収されたデータの男女別の比率は、男性48%、女性52%でほぼ同数であり、年齢別にみた比率の構成は居住開始時期、職種と共に図、表-1に示している。この結果、年齢構成の比率においてもほぼ均一なデータが得られている事がわかる。更に昭和55年の調査に比べると60歳代以上の回答比率が高く、集計結果にこの影響が随所にみられる。居住開始時期についても先

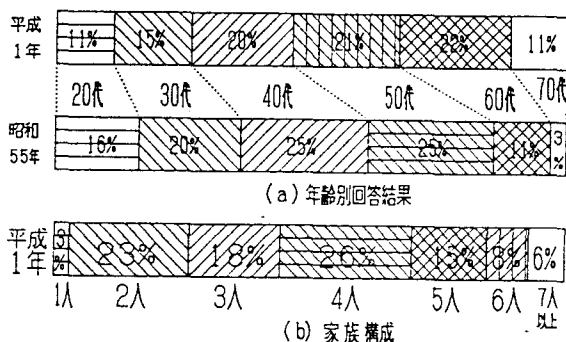


図-1 個人属性

に述べたように、戦前から住んでいる者、ベッドタウン化してから移り住んで来た者というところにピークがみられ、岡垣町の特性を反映している。

表-1 個人属性に関する集計結果

(a) 居住開始時期					
戦前から	昭和20年代	昭和30年代	昭和40年代	昭和50年代	昭和60年～
13% (27)	10% (11)	9% (7)	30% (33)	29% (21)	9% (-)

(b) 職 種							
農・林・漁業	商・工自営業	自由業	会社員A ^{*1}	会社員B ^{*2}	学生	主婦	その他
4% (8)	3% (5)	2% (3)	11% (17)	18% (20)	2% (1)	23% (22)	29% (22)

^{*1} 製造業に勤務 ^{*2} 商業・サービス業に勤務
() 内の数字は昭和55年時の数値を示す

(2) 町の位置づけ

表-2に示すように生鮮食料品のように鮮度が必要なものや単価の比較的安いものは町内で購入しているが、比較的単価の高いものや日常性の低いものは近郊の北九州市で購入しているようである。この結果から本町は消費生活においても北九州市とかなり深い結びつきが認められる。

表-2 主な消費地

買 入 先	町 内	北九州市	福 岡 市	左記以外の市町村	不 明
品 物					
ア. 生 鮮 食 料 品	91% (93)	3% (3)	0% (0)	1% (1)	5% (3)
イ. 衣 料 品	26% (40)	57% (48)	4% (4)	2% (1)	11% (6)
ウ. 耐 久 消 費 財	38% (50)	44% (40)	2% (2)	3% (2)	13% (6)

表-3 両町町に対する満足度
(a) 岡垣町への愛着度

ずっと住んでいたい	他の市町村へ移りたい	わからない
76% (76)	4% (3)	20% (21)

(b) 住み心地について

とても良い	良 い	悪 い	非常に悪い	わからない
22% (27)	57% (62)	8% (9)	1% (1)	12% (-)

(c) 行政についての満足度

満 足	ほぼ満足	やや不満	不 満	わからない
5% (7)	35% (38)	22% (24)	7% (6)	28% (21)

(3) 住み心地及び行政への満足度

表-3に示しているように現在住居環境にかなり満足しているようである。しかし、表-4に示すように医療、衛生、福祉に不満の声が集中しているだけでなく、公園、文化施設の充実にも目が向けられている事も注目に値する。行政に関してはやや不満の声が多いようである。なお、これらの項目を、数量化理論2類の外的要因として分析した結果については発表当日示す。

表-4 最優先で整備してほしい施設

	1 位	2 位	3 位
下 水 道	22% (12)	11% (12)	9% (8)
救急システムを持つ総合医療施設	17% (24)	19% (18)	14% (12)
道 路	14% (21)	7% (9)	5% (5)
老人などの福祉施設	11% (1)	10% (3)	10% (4)
交 通	9% (9)	8% (9)	5% (5)
大規模な公園 (自然、運動)	5% (1)	8% (5)	12% (7)
図 書 館	4% (3)	4% (5)	4% (5)
文 化 会 館	3% (1)	4% (1)	5% (2)

※注 28項目中で上位3位までを回答してもらった